

リケジョら 先輩が応援

ハ 理工系の進路を目指す「リケジョ（理系女子）」を応援しようと、八戸工業大学の女性教職員グループ「HIT（ヒット）リケジョLABO（ラボ）」が本年度、市内外の小中高生や保護者、教職員らを対象とした講演や進路相談を始めた。各メンバーの専門分野のほか、進路や就職先、仕事と家庭との両立など、先輩リケジョたちが経験を踏まえてアドバイスする。
(千葉真由美)

八工大女性教職員5人「LABO」設立



「相談の依頼は男女問いません」と語るリケジョLABOメンバー。(左から)畑中圭事、鮎川准教授、片山講師、高屋教授

進路相談やオンライン講演

HITリケジョLABOは昨年度、工学部生命環境科学科の鮎川恵理准教授（植物生態学）を会長に、同学科の片山裕美講師（環境化学・分析化学）、感性デザイン学部創生デザイン学科の高屋喜久子教授（ビジュアルデザイン）、同学科の後藤厚子准教授（農業経済学）、社会連携学術推進室の畑中ひとみ主任の5人が立ち上げた。

当初は中学・高校などへの出張講演や対面による個別相談を行う計画だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、オンライン講演や電話・メールによる相談にも対応することにした。費用は無料。メンバーの専門外の相談には、メンバー経由で同大の男性教員から情報提供する

ことも可能という。同大初の理系女性教員として2004年から教壇に立つ鮎川准教授は、子ども2人を育てながら教育・研究活動を続けており「男性の先生方をはじめ周囲の理解があるからこそ」と語る。しかし「理系の女性研究者の多くは、結婚や出産を機にキャリアを諦めてしまうのが現状」とし「リケジョを増やし、普通の家庭生活を送りながら仕事や研究を続けられる環境づくりを進めたい」と思いを語った。

化学が専門の片山講師は「子どもたちに遊び感覚で理系分野を体験できる場をつくりたい」と、ワークショップ開催依頼などにも対応する構えだ。

問い合わせは社会連携学術推進室（電話0178(05)8005）かりケジョLABO（メール: ejio@hi-tech.ac.jp）へ。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」